

親子聖書日課

NO.1878 2024.9/22-28

名前

[日] 両戸を開けると光が差し込んで、たちまち闇が消え去るように、御言葉が心に差し込んでくると、悲しみが喜びに、不安が平安に、失望が希望に変わります。御言葉を拒んではいけません。心の扉を開いて、御言葉を素直に受け入れましょう。

[月] 119篇を振り返ると、階段を22段上がったような恵みの高嶺に引き上げられた感動を覚えます。しかし、喜んではいられません。私達も176節の祈りを捧げましょう。自分自身が迷える小羊であることに気づいて、主の声に聴き従いましょう。

[火] 平和を語る第一歩は、挨拶を交わすことです。イスラエルの挨拶「シャローム」には「平和」という意味があります。挨拶を交わさない人は「平和を憎む」人です。誰にも気さくに挨拶を交わせる人こそ、平和を実現する人、そんな人になりたい！

[水] 真の助けは、天地を造られた神から来ますから、あちこちに助けを求めないで、神に助けを求めましょう。神の助けは完全です。24時間眠ることなく、見守って下さいます。この神の助けを頂くために、神を絶えず礼拝し、霊的に目覚めましょう。

[木] 「教会に行きたい」と、家族や友人に言われたら飛び上がるほど嬉しいですね。それは主にある平和が家庭の中にも築かれ、賛美の絶えない家庭になるからです。「教会に行きたい」という声が起こるように、たゆまず祈り、絶えず誘いましょう。

[金] 時々、主に目を注いだのでは、主の救いに与れません。憐れみを頂くまで、目を注ぐことです。「目を注ぐ」とは、奴隷が主人の指示を仰ぐことです。私達は主の僕ですから、ひたすらに御言葉に従い、へりくだって憐れみを待ち望みましょう。

[土] 「主が私達の味方でなかったなら」罪の赦しも、死の勝利もなく、人生の重荷に押しつぶされていたでしょう。主が味方となって下さるから、どんな時も喜びと平安と希望が持てるのです。主を味方にするには、主に信頼し、主に従うことです。



	聖書	問題	答え
日	詩編 119:121-152	御言葉がどうされると光が射出できますか。	
月	119:153-176	あなたの戒めを私はどうしますか。	
火	120:1-7	何こそ、私は語るべきですか。	
水	121:1-8	私の助けはどこから来ますか。	
木	122:1-9	私がうれしかったのは人々が何と言った時でしたか。	
金	123:1-4	私達の主に何を注ぎ、憐れみを待ちますか。	
土	124:1-8	主が私達の何でなかったら、敵意の炎に呑み込まれていましたか。	
感想と祈りの課題			